

メキシコ – 米大統領選を受け、50bp利上げ –

＜政策金利を5.25%に引き上げ＞

メキシコ中央銀行は11月17日（現地時間）、政策金利を50bp引き上げて5.25%にすることを決定しました。利上げは9月以来で、今年4度目になります。

声明文では通貨安に伴うインフレ圧力の上昇リスクを抑えるため利上げを決定したとしています。また、世界的なボラティリティの増大に加え、米大統領選の結果が米国とメキシコの関係に影響するため、メキシコ経済を取り巻く環境は不透明感が増していると指摘しています。

＜メキシコペソは最安値更新＞

米大統領選でメキシコに対して厳しい発言を続けていたトランプ氏が勝利を収めたため、メキシコペソは対米ドルで急落し、11日には一時1米ドル＝21メキシコペソ台まで下落して最安値を更新しました。

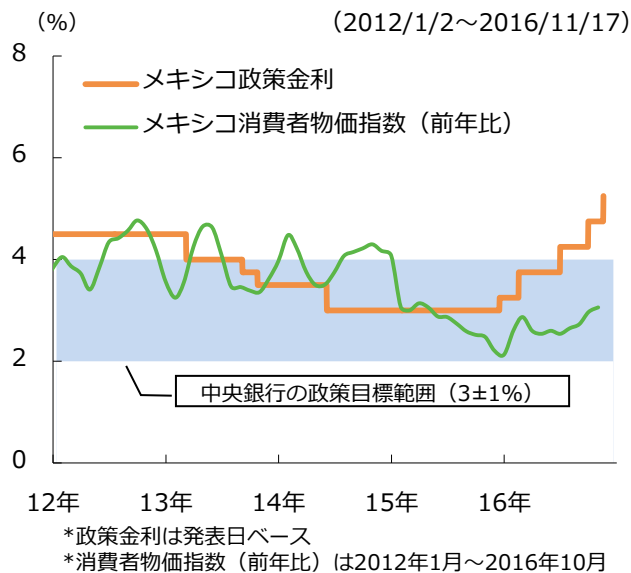
今回の50bpの利上げは市場予想通りでしたが、一部で大幅な利上げも見込まれていたことから発表後のメキシコペソは対米ドルでやや弱含んで推移しています。11月17日の海外終値は1米ドル＝20.43メキシコペソ、1メキシコペソ＝5.3924円となっています。

＜今後の見通し＞

米大統領選に勝利したトランプ氏はメキシコの経済成長の要因ともなったNAFTA（北米自由貿易協定）の見直しを公約に掲げており、今後のメキシコ経済への影響が懸念されます。ただ、上下両院で共和党が過半数を獲得した議会によりある程度コントロールされるため、過激な政策がすぐに実行される可能性は低いと見込まれます。

当面はトランプ氏の勝利に対する懸念からメキシコペソは不安定な動きが続くと見られますが、同氏の政策運営に対する不透明な部分が徐々に明らかになるにつれて過度な懸念が後退していくとみられることや、中銀や政府の強固な対応姿勢がメキシコペソをサポートする要因になると考えられます。

＜インフレ指標と政策金利の推移＞



＜メキシコペソ為替の推移＞



出所：Bloomberg